



緑肥・緑化の部屋 27

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

Q

植物の生育にはチッソが必要だといえます。
この空気中の気体の約80%がチッソなのに、
空気中のチッソを植物は
利用できないのでしょうか？

A

大気中の78%はチッソといわれていますが、そのチッソを植物はそのままでは利用できません。

自然界では、植物が空気中のチッソを利用できるようにするためには、二つの方法があります。

一つ目は、『雷』です。昔から『雷が落ちると豊作』といわれており、これが『雷光は稲を太らせる(妊娠させる)』⇒稲の夫⇒稲妻と変化し、これが稲妻の語源であったといわれています。

社社の注連縄(しめなわ)のギザギザの白い紙も、この稲妻を表しているといわれています。しかし、稲妻の発生を人為的に操作することはできません。

そこでおすすめする二つ目の方法は、『根粒菌』の活用です。根粒菌は、ご存じの通り主にマメ科作物に共生し、空気中からチッソを吸収して、それを植物に与える見返りに、共生している植物から栄養分を受け取るという『ギブ&テイク』の関係を築いています。

チッソ肥料工場では、工業的に空気中のチッソを固定しているともいえますが、地球上で一年間にチッソ固定される量は、下図の通りです。地球上のチッソ固定の3分の2が、根粒菌によるものになります。

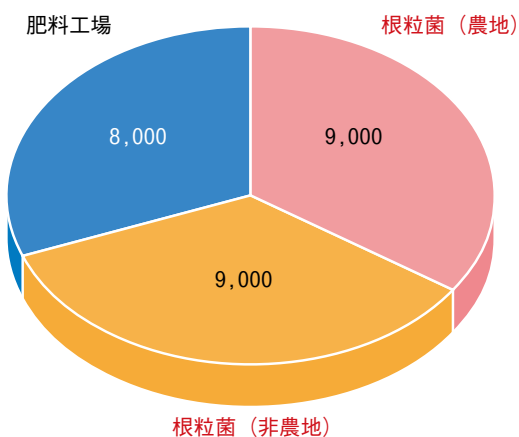
これだけの力のある根粒菌、利用してみませんか？



↑ダイズの根粒菌。
(写真提供：秋田県立大学)

■地球上のチッソ固定の量
(単位：万 t)

- 根粒菌 (農地)
- 根粒菌 (非農地)
- 肥料工場でのチッソ固定



根粒菌によるチッソ固定が3分の2。

マメ科植物の栽培前におすすめ！

クローバ (景観用)
クリムソクローバ

- 一年生で春まき主体。
- 深紅のストロベリー状の花をつけ、景観用にも最適。
- 短期間の緑肥に。

〈播種適期〉

- 中間地・暖地
3月～4月中旬、
9月下旬～11月中旬

〈播種量〉

- 2～3 kg/10 a

